

# サマーレビュー2017 調書

1 部局名 (課名)	こども家庭部 (子育て支援課)
2 協議事項 (案件名)	こどもの貧困対策における学習支援事業の拡充
3 背景・現状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ こどもの貧困対策に向けて、H28 実施した生活実態調査等の結果、生活困窮群 9.3%のうち約 8 割の方(推計 2,126 人)が身近な場所での学習支援を希望。</li> <li>・ 学習支援団体(民間・行政含)は 15 団体 260 人(H28.11 現在)</li> <li>・ H29.3 子どもの未来サポートプロジェクトを策定し、関係団体の連携を推進するため、貧困対策コーディネーターを配置、及び市内 5 か所で新たに学習支援事業を実施。H29 末予定 385 人</li> <li>・ H29.7 社会福祉協議会へ業務委託契約。学習支援事業本格稼働は 9 月以降</li> <li>・ 今後増加する社会資源等を円滑にまとめるためには、コーディネーターへの役割期待は大きい</li> </ul>
4 検討経過・課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実態調査による学習支援事業の希望者数に対して、現在地域で開催している教室数が少なく、ニーズに対応できていないため、更なる拡充の検討が必要。</li> <li>・ こどもの貧困対策に向けて、地域や企業、学校等連携・推進していくためには、コーディネーターの役割は必要不可欠であり、体制が整うまでは、継続的な配置は必要。</li> <li>・ 国の助成は、新たな取組みの開始に対するものであり、H29 に限定。</li> </ul>
5-1 方向性の提案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生活困窮群児童への学習支援事業実施の拡充(毎年 5 会場ずつ増やすことで、H31 概ねニーズ量の 1/3、H33 概ねニーズ量の 1/2 対応)</li> <li>・ 地域に学習支援団体や居場所等を実施する社会資源が増える中、団体等が有機的な活動が行なえるよう、コーディネーターの配置継続</li> </ul>
5-2 論点 方向性の決定 に向け議論 する事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 学習支援事業の拡充について</li> <li>➤ コーディネーターの継続実施について(市単事業)</li> </ul>

6 結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>■提案どおり進める</li> <li>□提案内容を一部見直して進める</li> <li>□再度、調査研究等を行い検討</li> <li>□その他</li> </ul>	<p>具体的内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 学習支援事業の実施会場について学校での開催を教育委員会と調整すること。また、国の補助等を活用すること。</li> </ul>
7 その他		